

## 実践のまとめ（第2学年 道徳科）

小千谷市立片貝中学校  
教諭 高橋 郁弥

### 1 研究テーマ

#### 自己の生き方への考えを深める授業づくり

～授業において、自分自身の考えを練り上げることを通して～

### 2 研究テーマについて

#### (1) 研究テーマ設定の意図

学習指導要領（平成29年3月告示）では、道徳科の学習を進めていくに当たって、「自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方について考えを深める学習」を求めている。

本研究では、「人間としての生き方についての考えを深める」という点に着目した。これは、生徒が道徳的価値に関する様々な見方や考え方を受け、自らの考えを練り上げ、今後の生き方につなげていく段階だと捉えている。これまでの授業を振り返ると、導入で道徳的価値に関する生徒の考えを問い、展開で教材文の出来事についてグループで考え、終末では「今日の授業で気付いたことや考えたことを書きましよう」と生徒に提示するという流れで学習を進めてきた。生徒は意欲的に意見を出し、活発な学習活動が展開できた一方で、一人一人が道徳的価値に対する考えを練り上げることについては課題が残る。生徒がこれまでの経験や見聞から培った考え方を教材文や仲間といった他者の考えから、多面的・多角的な視点に触れた上で道徳的価値に対する考えを練り上げることが、これからの自己の生き方に対する深い考えにつながると考え、本テーマを設定した。

#### (2) 研究テーマに迫るために

##### ① 導入の工夫

これまでの導入では、スケールや心情円を用いて、教材文の出来事や登場人物の言動に対する生徒の考えを引き出してきた。この手法は考えを表明しにくい生徒であっても、授業に参加しやすい良さがあった。しかし、そうした手法だけでなく、直接的に道徳的価値に関する生徒の考えを問うことでも、生徒は考えを表明できると考える。学習前の道徳的価値に関する考えを顕在化させ、生徒それぞれの既存の価値観を引き出すことに加えて、その考えの元となった経験や見聞を書かせることで、思いつきではない根拠のある価値観に気付かせる。

##### ② 終末の工夫

前述のとおりこれまでの終末では、どの授業でも同じ問い方をし、その日の学習の振り返りを記述させていた。これまでの生徒の記述では、今までの自分と学習後の自分を比較したものがあつた一方、なぜそういう考えに至ったのかという経緯や根拠が見えにくい記述もあつた。そこで終末では、単元の学習の中で仲間の考えや教材の考えから自分の心に響いたものを挙げさせ、それを踏まえて道徳的価値に対する考えを改めて問い直すことで、生徒が考えを練り上げていくことにつなげたい。

##### ③ 発問の精選

導入や終末を丁寧に行うことを考えると、できるだけ少ない発問で授業を展開していくことが求められる。そのために、ねらいに深く迫り、多面的・多角的な考えが出やすい発

問を精選していく。その上で、これまで行ってきたファシリテーションの手法を用いて、生徒の多様な意見を出させていく。

### (3) 研究テーマにかかわる評価

教材文の出来事や考え、それに関する仲間の考えに触れ、意見交流を重ねた上で、道徳的価値に対する自分の考えを練り上げているか、授業の観察や道徳ノートの記述から見取る。

## 3 指導計画

### (1) 主題名

それぞれの良さを分かり合うために（内容項目 B－9 相互理解、寛容）

### (2) 教材名

「遠足で学んだこと」（新しい道徳 2 東京書籍）

### (3) 主題設定の理由

#### ① ねらいとする道徳的価値

考えや意見の違う他者とより良い人間関係を築き、協働していくためには、互いの存在の独自性を認め、相手の考えや立場を尊重することが大切である。また、他者を理解するためには、互いに考えや意見を発信することが鍵となる。その際、他者にただ同調することは、理解し合うことにはつながらない。しかし、生徒は他者との違いを、自分とは関わりのない、かけ離れた存在として定義したり、衝突を恐れて自分の思っていることを伝えようとしなかったりと、理解し合うための一歩を踏み出せていないように感じる。

本時では、主人公が価値観の違う仲間に対して、自分の考えを伝えながらも、相手のことを理解しようとする姿から、理解し合うための在るべき姿について理解を深める。そして、互いを理解し合う上で必要なことについて考え、どんな他者とも理解し合いより良い人間関係を築こうとする態度と実践意欲を育みたい。

#### ② 教材と生徒

本教材は、生活班で行動する遠足での個々の言動から、互いの考えの違いを表している。内容は、7人の生活班で協力し合いながら遠足を行おうとするべく（藤野君）であったが、男子2人は先を急いでしまい、植物に詳しい吉川君と女子3人は後から遅れているため、間に挟まれた形になってしまう。それぞれが大切にしている考えや思いをめぐって藤野君と吉川君は口論になるが、「みんなちがってみんないい」という言葉を藤野君は思い出し、価値観の違いを“良さ”として認めようと思い始める。本教材では、価値観の違い者同士が自分の考えを伝え合ったり、互いの良さを認めようと、歩み寄ったりする姿がある。その姿は、相互理解を実現するうえで大切なものであり、それを気付かせることに適している。

生徒はこれまで、道徳授業でのグループ活動や委員会や行事等での協働活動から、互いを理解し合ったり、それぞれの良さを認め合ったりする活動を行ってきており、親和的な関係を築くことにつなげている。一方で、一緒に過ごす時間が長いにもかかわらず、自分の考えを上手く伝えられなかったり、思っても言えないことがあったりと、衝突や誤解を恐れて、自分の言いたいことを我慢する傾向がある。また、そのことが他者の言うことを全て聞き入れていれば良いという安易な考えにもつながっている。本時では、たとえ価値観の違い相手であっても、自分の考えを伝えた上で、相手の良さを認めることが、互いに理解し合うことにつながることを理解し、今後の人間関係の築き方について考えを深める時間にしたい。

#### (4) 他の教科、領域との関連について

	教科・領域	道徳科	教育活動
一学期	英語 ・「情報をつなげ、メモをとろう」(5月) ・「スープの材料」(6月) ・「文章の構成を考えよう」(7月) ・「Gon, the Little Fox」(7月) 国語 ・「グループディスカッション」(6月)		・よりよい人間関係づくり(6月)
二学期	英語 ・「会話をつなげ、深めよう」(11月) 音楽 ・「オペラに親しみ、その魅力を味わおう」(11月)	・「遠足で学んだこと」(10月) B-9 相互理解、寛容	
三学期	英語 ・「説得力のある主張をしよう」(2月)	・「注文をまちがえる料理店」(1月) B-9 相互理解、寛容	・性に関する指導(1月)

#### (5) 本時のねらい

自分の考えを伝えたり、他者の良さを認めたりすることの大切さに気付くことを通して、価値観の違いを超えた、より良い人間関係を築こうとする実践意欲を育てる。

#### (6) 本時の展開

	□学習活動	○主な発問 ・予想される児童(生徒)の反応	◇留意点
事前活動 15分	□道徳的価値に対する既存の考えを出す。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">○他者と理解し合うために大切なことは何だろう？</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話をよく聞くこと。</li> <li>・相手をよく知ろうとすること。</li> <li>・良いところに目を向けること。</li> <li>・自分の考えを伝えること。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">○価値観の違う相手と良い関係を築ける？</div> <p><b>【築ける】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・価値観が違うことは当たり前だし、違うからこそ学べるものがいっぱいあると思うから。</li> </ul> <p><b>【自信ない】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ケンカになってしまいそうだから。</li> </ul> <p>○教材文を範読する。</p>	<p>◇考えの根拠となった経験や見聞も書かせる。</p> <p>◇「築ける」「自信ない」の二軸のスケールで問う。</p> <p>◇立場や理由をノートに記入させる。</p>

<p>導入 10分</p>	<p>□道徳的価値に対する既存の考えを出す。</p>	<p>○「他者と理解し合うために大切なこと」についての生徒の意見を紹介する。</p> <p>○「価値観の違う相手良い関係を築ける？」についての理由を生徒に問う。</p> <p>○教材文の内容について確認する。</p>	
<p>展開 25分</p>	<p>□価値観の違いについて考える。</p>	<p>○価値観が違ったとき、どうする？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の価値観を尊重する。 →相手に嫌な思いをしてほしくないから。</li> <li>・分かってもらうまで話をする。 →自分の価値観を知ってもらうことが大事だから。</li> <li>・関わらないようにする。 →言い争いになりたくないから。</li> </ul>	<p>◇グループで挙げさせる。理由も挙げさせる。</p> <p>◇発表の時には、問い返しを行い、具体的な考えを聞いたり、他のグループの考えについて意見を述べさせたりする。</p>
<p>終末 10分</p>	<p>□本時のまとめ</p>	<p>○他者を理解するために大切なことは何だろう？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分も相手も考えをしっかりと伝え合うことが大切だと思った。ただ、相手のことを認めるだけでは平等な関係になれないし、望ましい関係とは言えないから。</li> <li>・他者と価値観が違って、良さを探ることが大切だと思った。良さを認め合うことが、よりよい人間関係を築くことの第一歩だと思うから。</li> </ul>	<p>◇今日の授業で自分の心に響いた教材文の考えや仲間の考えも合わせて挙げさせる。</p> <p>◇記入したことを班で発表し合い、数名の生徒に全体で発表させる。</p>

## (7) 本時の評価

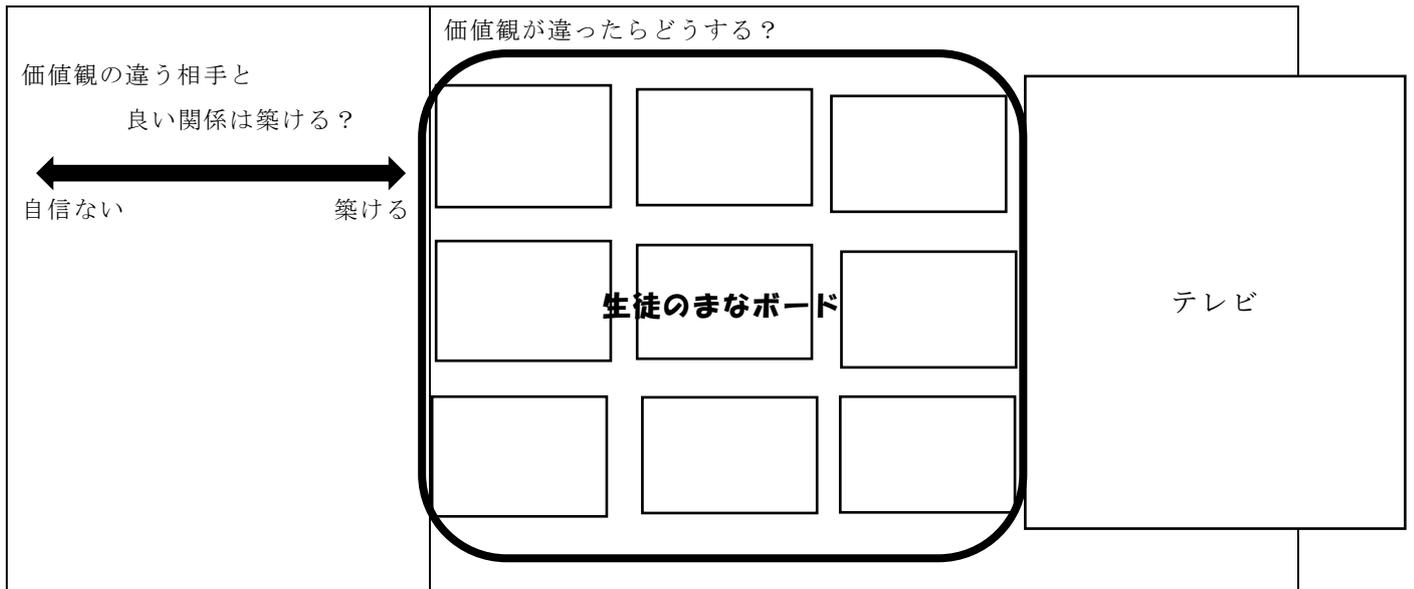
### ① 評価の視点

- ・「他者と理解し合うこと」に関する元々の考えを基に、教材文や他者の考えに触れ、意見交流を経て、自分の考えを進んで練り上げようとしていたか。
- ・教材文に表れている考えから、自分の生活と照らし合わせ、他者と理解し合い、よりよい人間関係を築こうとする意欲が高まったか。

### ② 評価の方法

- ・道徳ノートを活用し、生徒の道徳的価値についての考えや考えを練り上げていく過程を捉える。
- ・授業中の発言や、活動の様子を見取る。

## (8) 板書計画



## 6 実践を振り返って

### (1) 授業の実際

導入では、価値観の違う相手と良い関係を築けるかどうかについて考えさせた。「自信がない」「中間」「築ける」はバランスよく分かれ（図1）、多くの生徒が自分の生活経験を踏まえて、立場を明確にすることができた。一方で、生徒によって「価値観」や「良い関係」という言葉の捉えに差があり、身近な友達のことを考えた生徒もいれば、将来の姿をイメージした生徒もいたため、具体例を出しながら「価値観」や「良い関係」を定義する必要があったと感じている。

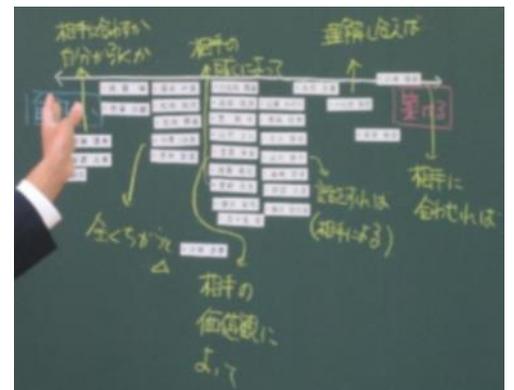


図1 生徒の立場

展開では、教材文を具体例として扱い、価値観が違った時にどうするかについて理由も合わせて考えさせた。ここでは、ファシリテーションの手法を用いて話し合いを行った。ファシリテーターの生徒は、グループの話し合いが停滞しないように、意見を求めたり、自分も意見を出したりするよう努めていた。また、ライターの子は、意見をボードに書く中で、矢印や吹き出しを有効に使って、話し合いの様子が可視化できるようにしていた。多くのグループで、「相手の価値観を尊重する」「自分の価値観を分かってもらうまで伝える」というねらいに沿った意見が出てきた。一方で、「縁を切る」という意見が一部のグループで挙がったため（図2）、このことについて、全体に問い返しをして考えさせた。生徒とのやり取りの中で、社会に出た時にその方法では通用しないこともあるのではないかという考えに収束していった。「縁を切る」という意見が出ることは想定しており、授業においてはその方向にいかないようにしたが、現実的にはその方法を取らざるを得ないこともあるため、意見をどこまで許容するかが難しいと感じた。

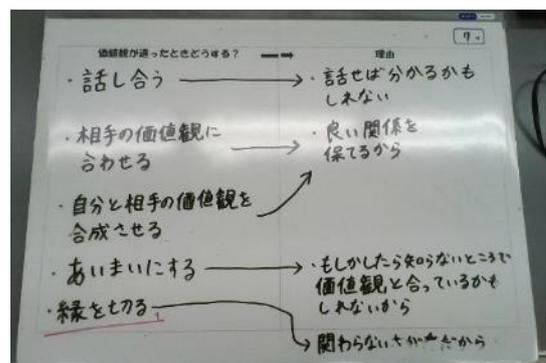


図2 グループ活動の記録

終末では、これまでの授業を踏まえて、他者を理解するために大切なことについて考えさせた。生徒の多くが、相手の価値観に安易に合わせたり、自分の価値観を押し付けたりするのではなく、対話を重ねた上で、お互いの価値観を理解していくことが大切だと記述しており、概ねねらいに迫ることができたと感じている。(図3)

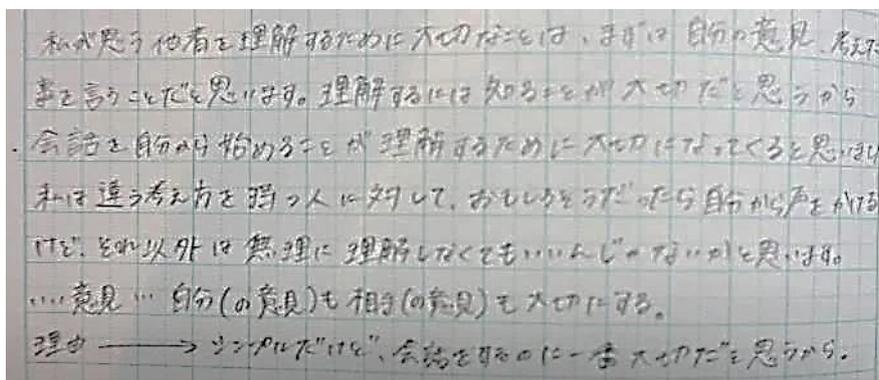


図3 生徒の振り返り

## (2) 研究テーマについて

- ① 生徒は道徳的価値に関する自分の考えを表明できていた。しかし、考えを表明しにくい道徳的価値もあるため、授業に応じてスケールや心情円を用いて既存の価値観を引き出ししていくことも有効であると考え。自分の考えの元となった経験や見聞を書かせたことについては、生徒によって記述の差が出た。授業の様子を見ると、思いつきで考えを表明しているようには思えないが、生徒自身が、自分がどうしてそう思っているのかを自覚していないことが度々見られた。個別指導を行いながら考えの根拠を引き出していくことが必要である。
- ② 自分の心に響いた考えを挙げさせたことで、生徒がどの考えから自分の納得解を得たのかが見えやすくなった。一方で、心に響いた考えを組み込みながら振り返りを記述する生徒は少なかった。その日の授業の振り返りとしてシンプルに記述させることの方が、生徒にとっては記述しやすいと考える。
- ③ 改めて発問の精選は難しいと感じた。ねらいから外れない発問にするのはもちろん、生徒にとって理解しやすい言い回しも大切だと感じた。様々な捉え方にならないような発問を吟味していくことが大切だと感じた。

## (3) 今後の課題

本研修を通して次の二つが課題として挙がる。

一つ目は、問い返しである。本時でも問い直しの場面を設定したが、生徒が反応しにくいような印象を受けた。また、生徒の意見をつなげたり、深めたりすることができなかった。生徒の意見を想定し、何をどう問い返すかを教師側がある程度用意しておくことが必要だと感じた。

二つ目は、生徒の考えをどう深めるかである。生徒の様子を見ていると、話合いの活動自体は活発であるものの、考えが深まらないと感じることがある。教材に明確に表われている考えだけでなく、その裏側や深層心理に迫れるような発問の工夫や補助発問が必要だと感じた。

今後も様々な手法に挑戦しながら、道徳の授業実践を行っていきたい。